ふかまちのまど

第二九五号　一八年　十月一日
発行元　深町連合町内会
連絡先　☎六三二三九二

連合町内会活動報告

礼状を頂きました。

深町連合町内会　様

お　礼

謹啓　時下ますますご隆盛のことお喜び申し上げます。

この度は、平成三十年七月豪雨に際し、ご寄附を賜り、ありがとうございました。貴社のご厚情に、心からお礼申し上げます。

今回の災害の爪痕は思いのほか大きく、今なお多くの方が不安な日々を過ごされています。そのような中、貴殿から賜ったご寄附は非常に有り難く、災害復旧並びに復興のために、有効に活用させていただく所存です。

本市の復興にはまだまだ時間を要しますが、一日でも早く、市民の安心・安全な暮らしを取り戻せるよう尽力して参りますとともに、復興に向けて全身全霊で取り組んで参ります。

末筆ながら、貴社のますますのご発展をお祈り申し上げ、お礼の言葉といたします。

謹白

平成三十年十月
三原市長　天満祥典

▲▲

敬老祝賀会を終えて

連合町内会文化部長
石井　張司

十月二十八日（日）晴れ渡った肌寒い朝、十時三十分より深小学校体育館にて行ないました。

例年九月の敬老の日に行いますが、七月の集中豪雨につづき八月の猛暑、九月も…と懸念し役員で話し合い順延となりました。

深町には、七十五歳以上の方が、百八十九名おられます。祝賀会に出席され方は、三十三名です。

力石連合会長のお祝いの言葉に始まり、市長の祝辞を代読しました。ご来賓に市議会議員安藤志保様、小学校校長松島恵子様、如水館中・高副校長谷川武司様、民生委員寺田弘様、向井和行様を迎へ心温まるご祝辞をいただきました。

カンパイにつづいて小学生一・二年生よるダンス、かわいいドラエモン、琴三会による大正琴の演奏、三成銭太鼓ウクレレリリーズによる演奏など昼食をとりながら楽しい時間が過ぎました。

だんだんと寒さが厳しくなります。お身体をご自愛くださり毎日を幸せに過ごされますよう心からお祈り申し上げます。

最後に役員の皆様には、お忙しい中、二日間に渡りご協力をいただき大変ありがとうございました。

▲▲

深町子どもを守る会

子どもをみんなで守りましょう。

深小の子供は

○午後四時過ぎに下校します。
※日によって、異なることがあります。
○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。
○あいさつ　声かけをしましょう

中組町内会だより

平成三十年度中組親睦旅行

中組町内会長
力石　秀喜

十一月三日（土）参加者は五十四名（大人四十七名、子供七名）八時三十分出発しまなみ海道へ

最初に亀老山展望にて村上水軍の海路をかいま見て塩アイスを、バイクとサイクリングの旅行者とすごし次へ

来島海峡潮流体験にて潮流の速い所で数回舟を止小島と船が真横に流されスリリングを満喫し橋の真下も航行し客船にもかかわらずかなりのスピードが出るのに驚きつつ終了

昼食も大変おいしく（海鮮・たい飯）頂きました。（少しアクシデントもありましたが無事にすみ）次へ

伯方の塩工場へスライド説明会と塩の種類と大量の塩を見学しおみやげを買いました。

ちなみに玄関に伯方の塩のメロディの鉄琴があり鳴らして見ました。

最後に大山祇神社の参拝をしました。境内の楠の樹齢三千年と二千五百年の大木を見学しましたがいずれも折れた物と上部が戦火で燃えた物ですがそれでも大木でした。それと境内の廊下の上部の額縁の写真に驚かされました。（奉納者に三井・三菱・住友の三大財閥とホンダの創業者・森繁久弥など）又おみやげを買いました。

そして帰路のバスに着き深町へ十八時前に帰宅しました。

本日は、天気も晴天に恵まれ大変楽しい旅行になったと思います。

最後に役員のみなさまご苦労でした。大変に感謝しています本当にありがとうございます。

▲▲

下組町内会だより

下組町内会親睦旅行

下組町内会長
石井　張司

十一月十一日（日）お天気に恵まれ参加人員二十七名で南国土佐に行きました。

車中で昼食の場所に何時何分に着くかとクイズが出されワイワイ・ガヤガヤ楽しい時間を過ごしているうちに到着しました。お待ちかねの昼食はカツオづくしです。

昼食後は、暖かい日差しの中、二時間三十分ひろめ市場、高知城など各々に散策し お土産を買ったり、雑談したりして親睦を図りました。

片道三時間というバスの長旅でしたが、事故もなく無事帰られたことに感謝いたします。

皆様大変お疲れさまでした。

▲▲

「ふかまちのまど」ホームページのアドレスは
http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html

深小だより

学習発表会で育む
～ふるさとを思う心～

三原市立深小学校
校長　松島　恵子

イチョウの葉が黄色く地面を覆う十一月十八日（日）学習発表会を行いました。

本年度も昨年度に引き続き、音楽や国語、総合的な学習の時間で学びを生かして発表することに挑戦し、表現力を高めること、発表にいたるまでの学習課程を大切にして協働して取り組むことで共に高まりあう集団としての力を高めることをねらいとしてのぞみました。既成の台本での劇ではなく、子どもたちと担任が知恵を出し合いながら、せりふや動き、大道具や小道具など工夫を重ねての発表でした。

一・二年生は、国語の教科書に載っている「くじらぐも」を音楽劇仕立てにしたものを、ピアノの生演奏にのせて体いっぱいで表現しました。

三・四、五、六年生は、総合的な学習の時間に取り組んだ地域単元学習の発表でした。これは、本年度、広島県で全県展開しているところの課題発見解決学習で、課題設定・情報収集・情報整理・まとめ・発信という学びの過程をうまく組み入れて台本に構成していったもので、しかも単なる発表に終始しないよう劇仕立てにして、子どもたちの地域への思いを情報発信しました。

三・四年生は、水辺教室をきっかけにして深の藤井川の環境をまもっていくことについて、五年生は、三原市の特産物のわけぎについて、六年生は、深の太鼓踊りの復活への熱い思いを未来につなぐことについて情報発信しました。

たくさんの保護者・地域の皆様に、ふるさとを思う子どもたちの心を感じていただけましたことを大変うれしく思います。

～保護者・地域の方のアンケートから～

・地域を大切にとの気持ちが大変上手に表現できており、泣けてきました。大成功です。

・地域のことがとてもよく分かりました。本日の学習発表会はとてもすばらしかったです。

・地域の良さを自分たちで考動していました。地域を大切にする気持ちが伝わってきました。今後も地域の一員としてその気持ちを持ち続けてほしいです。

・学習したことを工夫して発表の形にまとめ、しっかりと表現できていました。みんな力がついてきていますね。大変楽しませていただきました。

・友達と協力しながら物事を進めている姿が感じられました。声もはきはきして感じよかったです。大変良かったです。

学習発表会で育まれた主体性、思考力・判断力・表現力、自らへの自信、郷土愛をこれからも引き続き高めてまいります。

▲▲

謹んでお悔やみ申し上げます

仁井谷健様　八十歳
（中組　田屋講）　十一月二日
志水孝則様　七十七歳
（下組　四班）　十一月二十六日

深町各種団体十二月行事予定

◆連合町内会
▼ビーチボールバレー大会　一六日
◆小学校
▼市P連球技大会　二日
▼登校指導　三日
▼委員会　五日
▼放課後子ども教室　六日
▼PTA役員会　七日
▼学区児童会　一日
▼如水館チアダンス鑑賞　三日
▼こころの劇場　四日
▼市球技大会　六日
▼クラブ　七日
▼持久走大会　一八日
▼終業式　二一日
▼個人懇談　二八日
◆如水館中学・高校
▼仕事納め　二八日
▼研修旅行（高二）　二～五日
▼期末試験　三～六日
▼身だしなみ週間　七～一三日
▼学年朝会（高三年）　六日
▼学年朝会（高二年）　七日
▼学年朝会（高一年）　一八日
▼補充学習（高）　一八～二一日
▼補充学習（中）　一八・一九日
▼かるた大会（中）　二〇日
▼補充学習（中）　二一日
▼終業式　二一日
▼保護者会　二七・二六日

子ども会だより

春季全日本小学生大会
三原地区予選

深町子ども会ソフトボール
監督　頼兼　和秀

九月三十日（日）全日本小学生ソフトボール大会三原地区予選がありました。

来季選手の新人戦です。

深町子ども会ソフトボールの来季選手は八名の為、世羅東の選手を数名加えての大会参加となりました。

深町子ども会ソフトボールの初戦の相手は小泉子ども会ソフトボールです。昨年度の新人戦も初戦の相手は小泉子ども会で、深町二対四小泉で惜しくも敗退でした。昨年度のリベンジ戦です。今季後半はバッティング練習を中心に行なってきた事もあり、安心できる試合運びで深町十一対二小泉と大差での勝利となりました。

優勝できるのでは…。

二戦目は宗郷子ども育成会との対戦です。小泉戦とポジションを大きく変更して挑みました。打撃も悪くはなかったのですが、それ以上にミスがあり、深町三対九宗郷と残念な結果になってしまいました。試合に負けた事は悔しいですが、試合終了後に子供たち自身が悔しがっていた事がとても嬉しく感じました。

来春からのチーム作りとしては、勝つ事だけでなく負けても悔しさを感じ、子供たち自身が自分から何かを頑張っていけるチーム作りと、子供たちの育成に頑張っていきたいと思います。

現在選手八名。

男子・女子問わずチームメイトを募集しています。

深町子ども会ソフトボールで楽しく心と体を鍛えましょう！

▲▲

第二中学校だより

文化祭

一年　背戸　天斗

文化祭をやって思ったことがあります。それは三つあります。

一つ目は協力です。協力は深小ではいろいろ歌のようなものですが、二中では文化祭の何倍です。二中は一人一人が深小よりもあっさせようと劇や歌などを成功させようとうてきにすごいです。

二つ目は仲間おもいです。仲間は大切なものです。だけどぼくたちも劇のとき最初は全ぜんうまくありませんでした。それはもしきれいな紙にきれいな色をぬっているのを黒いを一滴落ちるときれいな色がだなしになると同じく劇も一人一人が仲間をおもいやることでいい劇ができるのです。

三つ目はあきらめないことです。あきらめないことは大切ですが、無理なときもあります。それでも何回もチャレンジすることでできるようになるのです。ぼくたちの先生が言ってたことは「必ずできる君たちは必ずできるんだ」と言っていました。だからぼくたちもあきらめずやったらできるようになりました。

ぼくは文化祭をやっておもったのをまとめると仲間と協力し、助け合いできるまでチャレンジすることを深小の小学生たちにもやってほしいなとおもいました。みなさんの劇を見てやってくれるとぼくは信じているし楽しみにしています。

▲▲

初めての文化祭、最高の演奏

一年　北迫　ひな

私は十月二十七日、人生で初めて文化祭というものを経験しました。今回の文化祭で、私は「ある事」をとても実感することができました。

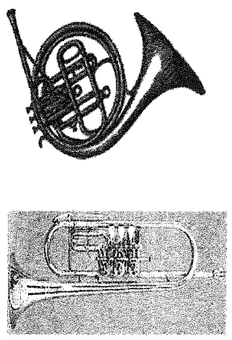
私は、中学校では吹奏楽部に所属しています。運動部に入るつもりだったので、この部活に入った自分に、今だにおどろいています。

吹奏楽部は毎年、アニメの曲や、有名な曲など、みんなが知っているような曲を選んで練習し、それを、いつもお世話になっている保護者や、地域の方々、二中の生徒に、文化祭という場を借りてひろうします。けれど演奏する曲の数はかなり多く、一・二年は八曲。三年生は十曲もありました。曲が多いので練習がとても大変でした。そんな中でも、二・三年生の先輩は私達後輩に、一生懸命曲を教えて下さりました。私はそんな先輩の姿に憧れを抱き、いつか私もそんな先輩になりたいと思いました。

本番が近づくと、演習時間が完全下校の時間をこえるなど、練習がより本格的になりました。

文化祭当日は。ライトで照らされたステージ。たくさんの人々からの視線。そして、ビリビリとした空気。きん張が走りました。ついに全楽器が元気よくなりはじめました。楽器を吹きながら、今までの練習風景が思い出されていく中、私は、みんなで一つのものをつくりあげる楽しさを心から実感しました。高音で美しくせん律をひっぱっていくフルート。今にも弾けそうな勢いのトランペット。下から包みこむように低音で支えるチューバ。様々な楽器のよさを活かした演奏。

吹奏楽部、最高です！



▲▲

『栖本郡代　石原太郎左衛門之事』
今回は、お休みさせて頂きます。

如水館中・高等学校だより

異星での日々

如水館中学校　二年　福田　一樹

僕がシンガポールという地に足を踏み入れたとき、まるで、違う星に来たようだった。何故なら、空港から何から何まで違っていたからだ。僕がそれより前に異国へ行ったことがあるこんなことを感じなかったかも知れないが、ことにかく、シンガポールは日本と異星だった。

そんな異星での日々は、日本という星との違いをつくづく感じた。街中の表記は英語と中国語なんていう国もなかなか無いだろう。

今、自分が撮った写真を見てみると、ジグソー・パズルが手違いなく組み合わさるように、頭の中の記憶の断片がグレーを埋め、その時にあったことをまざまざと思い出す。そのなかでも一番楽しく、勉強になったことは紛れもなく、B&Sにであった。僕たちの班に振り分けられた大学生は、当初はそんなことを考えてもみなかったが、実は大当たりだった。最初は話しかけづらかったが、大学生は意外にも明るく、驚いた。沢山質問をしてきて、それに返答している うちに、段々仲が深まってきた。今考えると、これもある種の話術だったのかもしれない。

昼食を済ませ、地下鉄に乗った時、あることに気付いた。それは、シンガポールの英語は、アメリカとイギリスの英語が混在しているということだ。例えば、街中の表記はサブウェイ（アメリカ）、地下鉄のセントラーという表記（centre）はイギリス、といった具合だ。こうして色々なことを考えながら町を歩くと、矢鱈に日本との違いが頭に浮かぶ。これが普通なのかは知る由も無いが、そんなことを考えるよりも、「アビー・ロード」のジャケット写真を一日中眺めることの方が楽しそうなので、やめておく。

このように、シンガポールは種々の布を一つの綺麗な布にしたような国だった。またいつか、そんな布に触れてみたいものだ。

▲▲

「シンガポールと日本の比較」

如水館中学校　二年　正田　嘉乃

私は、シンガポールに行って、シンガポールの良さを知りました。まず一つ目は、シンガポールの町は、とてもきれいだということです。なぜきれいなのかというと、シンガポールは、ポイ捨てや公共の場での飲食をすると罰金になるからです。二つ目は、地上に電線がないことです。そのため、電柱もなく、非常に安全です。

五日間という短い滞在でしたが、その期間で日本が改善すべき点を考えました。それは、ポイ捨てです。日本は、ポイ捨てをしたら罰金になるというルールはありません。ルールがなくても、日本人はゴミをたため、おお祭りの後など道ばたにゴミを捨てたり、持ち帰ったりせず、そのまま置いているのをよく見かけます。厳しいルールがなくても、日本人はポイ捨てをしていくためには、一人一人が意識をもつ必要があります。

逆に、日本の良い点も考えました。日本はおもてなしの心や、礼儀が備わっています。日本人同士だけでなく、外国の方にもおもてなしの心をもって行動ができていると感じました。

シンガポールの良いところを見習い、改善すべき点は改善し、日本の良い点を続けていけば、今よりもっと良い日本になるはずです。

今回、シンガポールで、貴重な体験をすることができました。日頃、日本と他国を比較して考える機会はありませんでしたが、シンガポールに行ったことで、考える力が身につきました。そして、自分の視野も広がったと感じています。シンガポールで学んだことを活かして、これからの中学校生活もがんばっていきます。

▲▲

深小今昔ものがたり（十四）
「四年の担任になりました」

尾道市美ノ郷町　石井　哲代

昭和四十五年四月、深小学校へ再度転勤させて頂きました。二階建の新校舎の落成式をした年に中之町小へ転勤したから私にとっては新校舎は深町内の御家庭で愛しみ育てられていた庭木が、『新校舎の為だから』と、快く寄贈されて元気よく育ち美しく二階建て校舎をうき立たせておりました。

受け持ちは四年生、男子六名、女子八名計十四名、天真らんまん、活発な四年生でした。校長室の真上です。気を使うのは私だけ、子供達は天真らんまん。毎分、毎秒、嬉しくて仕方がない有様でした。が、校長室の真上であり、お客様もあることだから、「できるだけ音をたてないように」を最大の目標にしました。或る程度授業中は静かになりましたが、休み時間になると緊張がすぐとれて、全員外へはだしで跳び出し、元気よく走り回っておりました。

掃除の時間になりました。黙々と雑巾を硬く絞って教室の隅々まで拭いている女の子、黒板の桟や戸棚の桟などの届かない箇所を丁寧に拭いている女の子がいます。

「人が見ていても、居なくても、きっちり拭いているんだね、私も、あのような人間になりたい」子供に教えられた一こまです。そうした私の姿勢に直ぐ反応してくれる四年生。

教室の前の廊下はピカピカ。隣の教室も負けじとピカピカ。

たてわりの掃除は、上級生が下級生を、いたわりながら箒の使い方、雑巾の絞り方、拭き方を教えてあげる。

二階建の校舎は、ピカピカでした。

▲▲

歩く会にご参加を

歩く会幹事　石井　堂熙

東広島市西条町
三ツ城古墳

行程	月　日	十二月十一日（火）
	予備日	十二月十三日（木）
八時	三〇分	深町上組公民館発（車）
十時	〇〇分	三ツ城古墳探訪
十一時	三〇分	探訪終了　昼食
十四時	〇〇分	深町上組公民館着（車）

▲▲

深町の植物

力石　卓夫（三原市宗郷）

《ツルニンジン》

ツルニンジン（蔓人参）の名前の由来は、根が朝鮮人参のように肥大し、茎がつるになることによる。
※十月四日撮影

▲▲

TBG協会だより

第十五回尾道ターゲット・バードゴルフ大会

第十五回尾道TBG大会会長杯が十月二十八日（日）に世羅町・小谷コースにて行なわれました。

三原市TBG協会からは、高崎修、金子勝彦、船本雄三、三崎卓夫の四名が参加しました

成績は次の通りです。

（シニアの部）

三位	金子	勝彦
二人組戦		
三位	金子	勝彦
	船本	雄三
ホールインワン		
	高崎	修
	金子	勝彦

第八十一回三原市ターゲット・バードゴルフ大会

第八十一回三原市TBG月例大会が十一月十七日（土）深町・城山コースにて行われました。

成績は次の通りです。

一位	三崎	卓夫
二位	石井	張司
三位	井上キヨコ	
ベスグロ六十六		
	船本	雄三
ホールインワン		
	高崎	修
	林	洋祐
	三崎	卓夫
二人組戦		
一位	三崎	卓夫
	井上	幸子

※選手の敬称略

次回大会は十二月十五日（土）

TBG事務局　天木　雅之
（TEL　六三二二二九〇）

▲▲

神社だより

神社よりお知らせ

王山神社　総代　寺田　弘・岡本義弘・天本雅之
責任者　向井省三・久保隆也・岡崎公志
迫　博明・濱部　純子

過日には、神社「秋祭り」宮入費域の寄附頂きました事、ひとえに深地の皆様の、ご理解・ご支援の賜物でございます。神社役員一同心より厚くお礼申し上げます。

除して、神社も毎年恒例の年末大掃さて、ありますが、当神社の神楽殿床上に、歴代の役員の方々が長年にわたり、神社施設の維持にこれは思われる板材、角材他関連資材等が管されますが全く使用されないます。ありあるようですが、他に物がかなりあるようですが、他に資材倉庫がありませんし、床下は外観上大変に見苦しく感じます。

いつかは誰かが思いかねて整理、処分を致しますんとこれ切っての社役員をされる方々も思いから先も神社役員のへご思い一つ悩まれる役員の度方の処報酬はちの節検分一度神社役員・連絡先

寺田　弘	〇九〇―七九一―一八九五
岡本義弘	〇九〇―一〇四―九八一
天本雅之	〇八〇―五六二―〇五二一
向井省三	〇八〇―五六二―〇五二一
岡崎公志	〇八〇―五六二―〇五二一

▲▲